

1/28(土)まじど！倫理号です。今週の倫理を読んで心の整理が何人なく  
スッキリします。"純情"になる。有難うございました。

今週の

倫理

1月のテーマ | 心の整理

2023. 1. 28~2. 3

1318号

これから紹介する仏陀と弟子とのエピソードは、本号のテーマ「心の整理」を考  
える上で示唆に富んだ内容です。

仏陀には周りから頭が悪く、愚かだとい  
われていた周利という弟子がいました。

日頃から、他の弟子達にバカにされてき  
た周利は自身の愚かさを嘆き、仏弟子をや  
めるために仏陀のもとを訪ねて伝えます。

「私はあまりに愚かなので、もうこれ以上  
修行を続けることはできません」

思い悩む周利を見て仏陀は言います。  
「自分のことを愚かだとわかっている者は  
愚か者ではない。本当の愚か者とは、自分  
を賢いと思いついてる者である」

仏陀は弟子を諭すように言葉を続けます。  
「ところでおまえの好きなことはなんだ  
ね」「はい、私は掃除が好きです」「そうか。  
では、(塵を払い、垢を除かん)と唱えなが  
ら、ただただ一心に掃除に取り組むがよい」

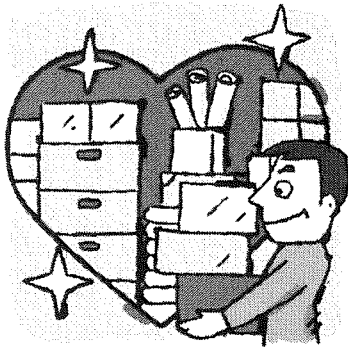
「はい、わかりました」

その後、周利は仏陀に言われた通りに「塵  
を払い、垢を除かん」と唱えながら、半年、  
一年、二年、五年、十年と来る日も来る日  
もひたすら掃除を行ないました。

やがて長い年月が経ち、周利の周辺に変  
化が生じてきました。

まず身の回りが清まり、それに伴う「場」  
や「物」が整ったのです。これは掃除のも  
つ本来の働きといえるでしょう。

そして、何より周囲の人の心を変えてい  
きました。地道に一つのことをやり遂げる  
周利の姿勢を見て、当初、軽蔑していた他



## 一心になって物事に取り組み 自らの境遇を切り拓いていく

の弟子達が、彼に一目置くようになり、心  
から尊敬するようになったのです。そして、  
ついには仏道修行の最終目的である「悟り」  
の境地に周利は到達したのでした。

ある日、仏陀は大衆を前に言いました。  
「悟りを開くということとは、何も多くの知  
識を得ることではない。たとえ小さなこと  
でも、地道に行なうことが大切なのだ」

私たちが学んでいる純粋倫理では、「一度  
こうと目的を定めたら終始一貫やってやっ  
てやりぬくこと」の大切さが説かれていま  
す。そして、先の逸話においても焦点とな  
っているのは、愚直なまでに一つのことを  
やり遂げる周利の姿勢そのものでした。

周利は当初、何事にも消極的で、憂いや  
悩み、恐れといった負の感情に支配され、  
心の整理が出来ていない状況だったといえ  
るでしょう。

そうした中で、その消極的な心を払拭す  
るかのように、仏陀は「一心」になること  
を促しました。周利は「自分に今できるこ  
と、何をなすべきか」に気づき、地道に物  
事に取り組むことで心が整理され、積極的  
な姿勢へと変わったのです。

「一心とは、(何のこだわりも不足もなく、澄  
みきつた張りきつた心)であり、純粋倫理で  
いう「純情(すなお)」に近い言葉とも言えます。  
岐路に立った時、まずは負の感情を伴う  
私情雑念を捨てて、「一心」になって物事に  
取り組んでみましょう。その実践によって、  
心が整理され、明朗闊達な心境に達すれば、  
境遇は自ずから切り拓かれていくのです。